

生活環境デザイン学科

■目的・目標

生活環境デザイン学科は、心地よい住まいや、魅力的な商業空間を設計するインテリアデザイナー、お年寄りや障がいがある人も不自由なく暮らせるように、住環境の改善を担うコーディネーター、福祉施設の設計ができる建築家を養成します。
そのための専門コースとして<住空間デザインコース>と<福祉空間デザインコース>を用意しています。

■アドミッションポリシー

みんなを幸せにする空間を考えたい、インテリアや家具のデザインに興味がある、快適で魅力的な空間を創造してみたい、福祉空間を学び社会に貢献したい、このような分野に、興味と関心と意欲ある学生を求めています。

■カリキュラムポリシー

生活環境デザイン学科では、心地よい室内空間を創造するデザイナー、高齢者に優しい住環境を実現できるエキスパートを育成するための、カリキュラムを整備します。

1. 人が生活するさまざまな空間を、快適な空間として設計するインテリアデザインと、高齢者や要介護者の健康的な生活を支えるユニバーサルデザインを重点的に学習。
2. 少人数クラスできめ細かく指導する1年次の「フレッシュマンゼミ」では、独自のテキストを用意し、建築・インテリア・福祉空間など、これから学ぶ多様な分野の理解を探めるとともに、さまざまな職種の職業性について学習。
3. 「建築表現入門」「デッサン・造形演習」など空間デザインのための基礎科目を用意。
4. インテリアデザインラボでは、家具製作のための木工機械を整備し、実習体験を支援。生活環境実験室とインテリア実験室には、福祉用具や照明設備を常備し、高齢者・要介護者の福祉空間やインテリアの演出手法などを体感。インテリア実験室は、家具の展示ギャラリーにも活用。
5. 4年次では、すべての学生が「卒業計画」に取り組み、専門家として自立できる問題解決能力や職業意識を育む。
6. 製図室には一人ひとりに専用の製図台を備え、いつでも設計製図に取り組める環境を用意。ネットラウンジやデジタルデザイン室には、インテリアCADのためのコンピュータ環境が充実。

■ディプロマポリシー

生活環境デザイン学科は、建築学などの技術を踏まえ、身近な生活環境の改善に取り組む、専門家の養成を目的とします。まわりの人と、つらさやうれしさを共有し、その人の立場に立って空間を創造できる力が備わったことを、卒業要件とします。<住空間デザインコース>の学生には、住まいや商業空間のインテリア設計や家具の設計／製作の力、<福祉空間デザインコース>の学生には、病院や福祉空間の設計、ユニバーサルデザインの理解とデザイン力が、求められます。4年次には、指導教員の下で、じっくりと設計・制作・研究に取り組む「卒業計画」を必修とします。